

PMR 資格試験への挑戦 1

PM 実践力の腕試し

石原 裕章

■ 受験動機

これまで自分が磨いてきたプロジェクトマネージャーのスキルについて客観的に評価して欲しい。それが PMR 資格試験を受験した動機である。

私はユーザー系の SI 企業で約 20 年間、プロジェクトマネージャーとして大規模基幹システムである CIS(顧客情報管理システム)の派生開発プロジェクトを 150 件以上成功裏に完遂してきた。

実績を重ねるにつれて大規模なプロジェクトを担当する機会が増え、社内ではプロジェクトマネージャーの第一人者として認められるようになった。

しかし、「長年同じシステムを担当しているから上手くマネジメントできているだけなのでは? (他では通用しないのでは?)」との不安、疑念があった。

その一方で、「プロジェクトマネジメントは汎用的なビジネススキルなのだから様々なシステムで通用するのかもしれない。」との期待も持っていた。

果たして、自分のスキルは世間で認められるものなのか?

その疑問を解消する手段として、プロジェクトマネージャーの実践力を認定する試験である PMR 試験を受験することとした。

■ 受験の感想

試験内容は、これまでのプロジェクトマネージャーとしての経験を総合的に試されるものであった。

論述試験は、様々なシチュエーションにおける問題点や対策案などを問われる。

経験したことのない種類のプロジェクト、知見のない業種の話題であったとしても、そのシチュエーションにおける問題点や対策をひねり出して論述しなければならない。

このような回答を作り出すには、経験に基づく引き出しの多さが重要であると感じた。

個人での試験対策として、これまでの経験を形式知化してまとめておく作業は有効だと考える。

どのようなシチュエーションで何を問題と捉え、どのような対策を取ってきたか、その思考のプロセスを明確にしておくことが試験で役立つ。

公式な試験対策として、PMR 試験紹介セミナーと PMR 養成研修の両方を受講したところ、どちらも有益だった。

PMR 養成研修は PMR 試験紹介セミナーの内容を包含しているが、どちらも受講することをお勧めする。

PMR 試験紹介セミナー(5 月~6 月に実施)

試験内容の紹介を聞くだけだと思って受講したところ、実際には試験対策の研修であったため驚いた。

説明を聞くだけでなく、1 次試験の論述試験の模擬問題に対して自分で回答を作成する参加型の研修となる。

気を抜かずに参加していただきたい。

残念ながら、受講者が作成した回答内容についてのフィードバックを受けることはできない。

模範解答の解説は頂けるため、自己採点をして改善点を探ることになる。

PMR 養成研修(7月～9月に実施)

前半は PMR 試験紹介セミナーと重複しているため、1 次試験対策の復習ができる貴重な機会となった。

後半は 2 次試験のモジュール試験の練習として、特定のシチュエーションについての論述を個人ワークとして行った後、他の参加者と討論を行う。

このプロセスを通じて、2 次試験の進め方について具体的なイメージが持てたのでありがたかった。

講師からは、討論での時間の使い方(節約方法)についてアドバイスを頂き、本番でも役に立った。

試験本番で印象に残っているのは、面談審査である。論述試験や面談審査の回答内容についてフィードバックを受けることができる。

面談でのフィードバックとして、私の思考は問題点の捉え方や対策の発想が QCD を起点とした内容に留まっている点について指摘を頂いた。

自分としてはプロジェクトマネージャーからプログラママネージャーへのステップアップを目指し、QCD から価値創造へと視野を広げることを意識していたつもりであったが、まだまだ考え方に偏りがあると気づけたことは収穫だった。

PMR 試験を通じて、これまでのプロジェクトマネジメント経験が様々な業種やプロジェクトでも活用できることを実感し、自信と安心を得られた。

この挑戦を通じて、自分の強みと弱み、プロジェクトマネージャーとしての特徴、そして今後プログラママネージャーを担っていくための強化ポイントについて気づきを得られ、非常に充実した経験だったと感じている。

■ PMR としての展望

PMR 資格試験に合格したことで、PMAJ から PMAJ ジャーナルの記事執筆やオンライン講座講師募集の案内を頂き、新たな活動の機会が広がっている。

また、PMR 資格試験を通じて新たな出会いに恵まれ、2 次試験の受験メンバーとは今も近況報告を続けている。

各自が P2M を意識した活動や情報発信を行っていることを知るたびに、視野が広がり、良い刺激を受けている。

PMR 合格を契機に、プロジェクトマネージャーおよびプログラママネージャーとしてのスキルやノウハウの情報発信など、社内外に活動の幅を広げていきたいと考えている。



【プロフィール】 石原 裕章 (いしはら ひろあき)
株式会社オーグス総研 プロフェッショナル
大手都市ガス事業会社グループの SI 企業である株式会社オーグス総研に勤務。
CIS(顧客情報管理システム)の大規模派生開発プロジェクトを PM として数多く担当。
社内のプロフェッショナル認定制度にて PM レベル 5 の認定を受けている。